



人と違うということが  
大きな価値になります

有限会社ゼムケンサービス  
代表取締役

こもり た じゅん こ  
**籠田 淳子**さん

## Q1「建設業界で働くことになった経緯について教えてください。」

私の父は、大工、棟梁を経て、工務店の建築工事を請け負う会社を創業しました。私は、子どもの頃から周りに大工さんや左官さんが沢山いる環境で育ち、「職人はカッコいいな」と思っていたので、そんな職人たちと仕事ができる一級建築士になりたいと思い、建設業界で働くことを決めました。

## Q2「男性の多い職業で働く中で、性別の壁（性別の違いによる困難）にぶつかったことはありますか？また、その壁をどのように乗り越えていきましたか。」

まず、私が工事関係者へのご挨拶にスカートとブレザーの正装で訪問した際、「ここでは、スカートではなくズボンに履き替えないと出入りさせません」と言われた時は相当ショックを受けました。また、お手洗いは、女性と男性が同じ所で同じ時間に使用することがとても不安でした。女性特有の生理の時は、休憩時間以外にもお手洗いをしますが、仕事をしていないように見られる気がして、みんなの目が気になりました。また、他に女性がいないのでとても不安になりました。

私たち女性には、「時間の壁」と「言葉の壁」と「知識の壁」という3つの大きな壁がありました。

「時間の壁」とは、私たちはどうしても子どものことや家族のことをしてから現場に行かないといけませんが、男性はある程度家族のサポートがあって現場に行くんです。現場で一緒に働く人間でも「家族のサポートを受ける人」と「家族のサポートをする人」という、家庭生活における男女のイメージがあるので、独身だった時は、女性である私が同じように働くと、「そんなんだったら嫁にも行けないよ」みたいなことを言われました。実際には、その「時間の壁」に関しては、私を応援してくれる方が沢山おり、諦めずにやり続けることができました。

「言葉の壁」は、私たち女性同士が使う言葉と、多くの男性たちが使う言葉が随分違うことと、専門用語も多く、最初は何を言っているのかわからないこともたくさんありました。ただ、一度わかるようになると、身近な存在としてかわいがってもらえるようになりました。「男性同士の共通言語が分かる女性」というのは希少価値があり、メリットにもなりました。

「知識の壁」も、私は諦めずに色々な方と話ができたので、あまり上下関係にこだわらず、話をすることで足りない部分も助けていただいたことがたくさんあったように感じます。

今は、壁を少しずつ溶かしていこうと思っています。



### Q3「会社の代表として、女性社員の働きやすさのために気を使っていることなどはありますか？」

働きやすさでいうと、「ワーク・ライフ・バランス」が皆さんの身近な言葉になってきていると思います。「家事や育児が女性の役割」という時代はもう終わりかけていると思います。女性も男性も頑張つて実力をつければ、同じくらいの給与をどんどん稼げるようになってくるのが大前提で、家でも女性と男性の合わせ技で家事も育児もやるのが当たり前になっていくと思います。男性と女性が、ともに家庭生活で暮らしを整えることができれば、自分の夢を実現して良いんだと思えるようになって、協力体制や働きやすさが更に生まれると思います。



「ワーク・ライフ・バランス」に関しては、私は基本的に裁量労働制といって、自分自身の仕事の裁量を決め時間を作り出しています。定時出勤・定時退社と決めつけるのではなく、自分自身の都合をあらかじめ会社の内外で相談することで、自分の用事も仕事の成果も同時に諦めないでいいというワーク・ライフ・バランスを理解してもらえるように定期的に会社からも説明して、お互いに助け合って家も会社もやっていく方針を打ち出しています。

あと女性は、建設業で筋力や体力が男性にはかなわない、難しい、体がきついと心まできつくなってしまうところがありましたが、今は建設機械も筋力をサポートできるものがたくさんできているので、そのような先進的な機械をどんどん取り入れて、男性も女性も、もっといならば高齢者の方も、同じような仕事ができる取組をしています。

リモートワークについても、当社では随分前から情報を共有できるサービスや、コミュニケーションのやり方には工夫を凝らしていて、お互いに助け合えるような職場を作っています。

### Q4「男女が共に活躍できる社会のために必要なことは何だと考えますか？」

私たちは人と同じであることが正解であるような教育を受けていて、いわゆる同調圧力とか、同調したり同化しなければ存在してはいけなないと考えてしまいがちなんですが、大事なことは「人と違うことがとても大きな価値になる」ということです。自分の周り自分よりすごい人ばかりだとか、自分をさげすんで考えてしまいがちですが、どんな人にも強みと弱みがあります。実は、弱みこそお互いに助け合える源泉になるということ、私は、たくさんの人と働いていく中で気が付きました。「短所明確長所明確」という言葉が私の人材育成にはすごく大切なキーワードで、自分の強みは人の弱みのために生かしたらいいし、逆に自分の弱みは人の力を引き出せる、人と繋がっていくことができる大事な力だと感じているのです。決して人と同じであることが正解ではなくて、その人その人のもっている強みも弱みも、とても大事だと考えています。

### Q5「男性の多い職業に就いている女性の立場から、自分の将来について考えはじめる中学生に向けてメッセージをお願いします。」

今の社会では、やはりどちらかの性別に偏っている職業はとて多いと思います。それはこれまでと同じことをやっていくうえではとても合理的ですが、「もっと快適に、もっと楽に、もっと楽しく」というような、「もっとより良いことを生み出していくため」には、これまでいなかった人たちが新しい考えや新しいやり方を試してみることが大切になります。

暮らしや色々なことが変わっていく今、変革や改革のためには、これまで男性が多い世界に女性が挑んでいくことが、ひとつのきっかけになっていくのだろうと私は思っています。